

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① 詩とか俳句とか短歌って読まれてないなあ、と思う。本屋にもそれらの本は殆ど置かれていないし、各ジャンルをおさえている『本の雑誌』でも扱われることは<sup>②</sup>稀だ。私は歌人なのでこれはさみしい。でも普段はそのことを忘れている。詩歌はあまりにもマイナーで読まれないことが当然のようになっていて、無念さや<sup>A</sup>痛みの感覚が麻痺しているのだ。

詩歌が読まれないのは、たぶん「わからない」からだろう。B.その前提には、詩や歌は「わかる」ひとには「わかる」。でも自分には「わからない」という読者の側の思い込みがあるのではないか。だが、それは誤解だ。あまり云われないことだが、そもそも近代以降の詩歌とは、どんなに「わかる」ひとにも半分くらいしか「わからない」ジャンルなのだ。例えば私の場合、20年以上詠みまた読み続けている短歌でも「わかる」のは全体の60パーセントくらいである。俳句が25パーセント、現代詩では10パーセントくらいだろうか。

② つまり専門的にやっている人間にとつても、詩歌は「わからない」のが普通。作品の紹介や解説をするときは、自分にとって「わかる」ものを選んでやっているに過ぎない。

だからみんなも怖がらずに読みましょう、と云つても、そううまくはいかない。今の読者にとって「わからない」ことへの抵抗感はとても強いのだ。確実に「わかる」ところに着地することが求められている。その結果、<sup>③</sup>近年は小説などでも、「泣ける」本とか、「笑える」本とか、感情面での一種の実用書のような扱いになっている。

「共感（シンパシー）」と「驚異（ワンダー）」、言語表現を支えるこれらふたつの要素のうち、「泣ける」本、「笑える」本を求める読者は、圧倒的に「共感」優位の読み方をしているのだろう。言葉のなかに「驚異」など求めていないのだ。

そして詩歌は「共感」よりも「驚異」との親和性が高い。だから敬遠される。例外的に読まれるのは、作品の背後に「共感」しやすい物語がある場合である。作者が不治の病とか心中したとか獄中の死刑囚とか、それらが「共感」面での補強要素として作用するわけだ。

人間の一生のなかで「驚異」を求める感覚が最も増大するのは思春期だろう。未知への憧れの高まりと共にひとは哲学書や詩歌の言葉に近づくことがある。そして年をとるにつれて世界への「共感」性を増してゆく、「<sup>④</sup>お天道様にも雑草にも石ころにも感謝」「今日一日が有り難い」的な感覚がその到達点か。

だが近頃、道端でそのような言葉を筆っぽい文字で書いたものを並べている若者たちをよくみる。やはり言葉の「共感」性が増大しているのか。<sup>④</sup>私は何んともなくこわいものをみるように横目でそれを見る。どうせ書くならもっと健全な、例えばこんなのにして欲しい。

- 竊盗金魚
- 強盗喇叭
- 恐喝胡弓
- 賭博ねこ
- 詐欺更紗
- 流職天鷲絨
- 姦淫林檎
- 傷害雲雀
- 殺人ちゆりつぶ
- 墮胎陰影
- 騒擾ゆき
- 放火まるめろ
- 誘拐かすてえら。

「囁語」<sup>⑤</sup> 山村暮鳥

詩や短歌から小説へ移った書き手は昔から沢山いるのに、その逆の小説から詩歌へという例は皆無である。これは小説の方が読者が多いとかお金になるとかいう理由だけによるものではない。書き手の加齢や経験の蓄積と共に、表現感覚が「驚異（ワンダー）」志向か

ら「共感(シンパシー)」「志向に移るのが普通であって、その逆ではないということの影響が大きいと思う。「驚異」から「共感」への感覚のシフトがジャンルとしての詩から小説への移行に対応しているのだ。

若い表現者が「驚異」を求める心の底には、今自分がある世界への強い違和感や反発心があるのだろう。この世界の全てと引き替えにしても未知の価値を得たい、という欲求は⑥そこから立ち上がってくる。彼らは、今までに誰もみたことがなかったものを作りたいと願う。初めて表現するくせに何故そんなに強気なのか、というのは大人の見方であって、初めてだからこそ無限に夢が膨らむのだ。殆どの場合、その試みは失敗する。だが、無謀な賭けに成功したひとりが次の新しい世界を拓く、というのが歴史の本質でもあるようだ。

若者の「驚異」への親和性は、現実の体験や実績の⑦乏しさとも関連している。過去の蓄積がないからこそ、今もっている全てを捨てても新しい何かを得たいとか、世界を更新したいとか、考えることができるのだ。彼等は過去や現在に敬意を払わない。その全てをなげうつても未来を掴もうとする。

年をとった人間はそうはいかない。加齢とともに過去は重くなり、未来の時間は少なくなる。だから今までに得たものの意味や価値を信じたい、という気持ちが強くなる。それが世界や他者や歴史への「共感」に結びつくのではないか。【⑦】。

生の時間が進むにつれて高まる「共感」とは人間の生存本能の一種だと思う。生の終局面において、「お天道様ありがとう」「道端の石ころや雑草たちありがとう」「御先祖さまありがとう」という「共感」の光に包まれながら、安らかに個体としての死を迎えたい、というわけだ。

それに対して、世界を⑧覆そうとする「驚異」志向は個の生存に対しては不利に働く。結果的に夭折や⑨非業の死を呼びやすい。「驚異」に触れようとする若者は死にやすい。冒険家やギャンブラーやロックミュージシャンや詩人も死にやすい。小説家のなかでも「共感」寄りのエンタテインメント作家よりも「驚異」寄りの純文学作家の方が死にやすい。

ところが、前項で述べたように近年の若者たちの言葉は「ありのままの君でいいんだよ」「しあわせは自分の心が決める」的な「共感」寄りにシフトしているようにみえる。これは何を意味しているのだろう。そうならなくてはサバイバルできないほど生存のための状況が厳しくなっているということか。だが「驚異」を求めて無謀な賭けに出る者がいなくなると世界は更新されなくなる。彼らの言葉の安らかさは、より大きな世界の滅びを予感させるのだ。

何かに感動する人間って鈍感なんじゃないか、と思うことがある。中学生のとき、世界の名作文学を何冊読んでも何も感じなかった。大人になって改めて読み直してみてもその面白さに驚いたのだが、これは経験を積んで作品の魅力がより深くわかるようになったということなのだろうか。どうも違うような気がする。加齢と共に「驚異」を「驚異」のままキャッチする能力が衰えて「共感」に変換して味わうようになったのではないか。

両親と一緒にテレビを観ていて、笑うタイミングとかツボが違うなあと思ったことがある。彼らは「驚異」を「驚異」のまま感受して面白がることができない。そこに「共感」性が多量に含まれていないと安心して笑うことができないのだ。NHKの昼のお笑い番組のようなタイプの笑いである。

スポーツ選手が遺影を抱えて入場してきたことを何度も強調するアナウンサーがいる。その選手のプレイ自体が生み出す「驚異」が信じられず、外部の物語による「共感」を付与しないと視聴者は感動できないと思っているのだ。先日の高校サッカー中継では、監督の名前が画面に出るたびにその下に「去年の11月に心臓の大手術」の文字が表示されていた。テレビ的に最も価値ある情報が「それ」なのだろう。【⑧】。

その観点から『スラムダンク』(井上雄彦)は凄いとと思う。残り時間0秒で信じられないような逆転シュートが入った瞬間、登場人物たちは全員【⑨】の表情をしている。「驚異」に触れてしまった者の顔だ。一瞬の後に周囲の人間たちが歓喜と絶望の表情に変わった後も、シュートを放った本人だけは「怖ろしい」「理解できない」という顔のまま。「驚異」から「共感」へ移行する心の時間差が表現されているのだ。逆転勝利というこの世の価値と共に喜びがやってくる前の、この「怖ろしい」「理解できない」瞬間こそが黄金の時ではないか。黄金の時の別名は【⑩】。スポーツなどというところのファンタジスタとは【⑩】を生み出す者のことだろう。

「驚異」と「共感」の間の時間差について、中原中也は次のように述べている。

知れよ、面白いから笑ふので、笑ふので面白いのではない。面白い所では人は寧ろ【⑪】つぶしたやうな表情をする。やがてにつこりするのだが、【⑪】つぶしてゐる所が芸術世界で、笑ふ所はもう生活世界だと云へる。



問十四 破線部A「痛み」、B「その」の品詞をそれぞれ漢字で答えよ。

問十五 波線部①～④の漢字をひらがなに直せ。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、右近の馬場うまばにして競馬くらべうまありけるに、一番に尾張の兼時、下野の敦行乗りたりける。兼時、競馬くらべうまに乗る事極めて上手なり。  
馬の競走場

**A** 古いにしへの者にもつゆ恥はづれず、微妙すばらしいなりける者なり。ただし悪しき馬に乗る事を以つてのみなむ、**B** 少し心もとなかりける。敦行は、悪しき馬も①つゆ嫌きらはず。その中に鞭競馬むちくらべうまに極めたる上手にてなむありける。

**X** しかるに、その日の競馬に、敦行は進退に賢き馬にぞ乗りたりける。兼時は宮城と言ふ **a** 高名たかみなの上り馬あがりうまにぞ乗りたりける。その宮城は、極めて走りは疾とかりけれども②いたく上りければ、兼時が乗馬にはすこぶる負はぬを、兼時いかに思ひけるにかありけむ、その日左の一番にて選えらびてこの宮城になむ乗りたりける。  
暴れ馬

しかるに、既に三地は畢はてて押し合ひて乗り組みて打追ふ。この宮城、常の事なれば玉を取る様に上りけるに、兼時いみじき競馬の手どもにもえ乗らで、ただ落されじとのみする程に、兼時侘いやび出いだして、負けにけり。  
発揮することが出来ず 二人組で乗る時から 二度の足慣らしが終わり 走らせた 苦しくなってきた 手玉を取るように跳ね上がったので 素晴らしい競馬の技

競馬には並び組む程よりは **b** 勝ちかちて行いふ程までは多くの手あるなり。但し負馬渡す事は習ひも無くつゆ知りたる人も無かりけるに、その日兼時が負けて行ひける様を見てなむ、万の人、「現いまに負くとも、③かくてこそは行はめ」とぞ見ける。 **C** いかなる手にかありけむ。

万の人に、「極めていとほし」と見ゆる姿してぞ渡りける。されば、「兼時、『負馬とねりに乗りたる作法を万の人に見知らせむ』と思ひて、さて宮城には乗りて、故ゆゑに負くる事にやあらむ」と人疑ひける。それより後なむ、よき人も舍人とねりも、「負馬渡す作法はかくなむありける」と知りける。  
まじりに気の毒だ 乗って行った と云うことは 見せてやろう

まことに④さも疑はれたる事なりかし。兼時は、悪しき馬の上り馬に乗る事は少し心無く、選えらびて宮城に乗りけむ。心得ぬ事なり。  
分別なく 不審なことだ

されば、その日兼時わざと好みて負けたるとぞ世の人皆讚ほめののしりける、となむ語り伝へたるとや。

(『今昔物語集』一部改)

問一 二重傍線部A～Cの現代語訳として最も適当なものを次の中から選えらび、それぞれ記号で答えよ。

- A 古の者にもつゆ恥はづれず
- ア 昔の名手に全く恥はづれることのない
- イ 昔の名手でも恥はづじて道を譲るぐらい
- ウ 昔の名手が恥はづずかしくなるほどの
- エ 昔の名手なら恥はづじずに対抗できたが
- B 少し心もとなかりける
- ア 少し心が躍はってやる気が出た
- イ 少しも心配などなかった
- ウ 少々神がかった時があった
- エ 少しばかり頼たりなかった
- C いかなる手にかありけむ
- ア どうしても手が届かなかったからだろうか
- イ どのような作法だったのであろうか
- ウ どんな手段を使えばよかったのだろうか
- エ どうやってその方法を考えたのだろうか

問二 波線部 a「高名」、b「勝かちて行いふ」をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書け。

問三 傍線部①「つゆ嫌はず」、②「いたく上りければ」、の動作の主体は何か。最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えよ。

- |      |       |      |       |       |
|------|-------|------|-------|-------|
| ア 右近 | イ 兼時  | ウ 敦行 | エ 古の者 | オ 賢き馬 |
| カ 宮城 | キ 万の人 | ク 走り |       |       |

問四 傍線部③「かくてこそは行はめ」とあるが、人々がどのように思った兼時の様子を表わしている一文を抜き出せ。

問五 傍線部④「さも疑はれたる事なりかし」は、「このように疑われたのは当然である」という現代語訳になるが、どのように「疑われたのか、その内容を解答欄に合うように三十五字以内で答えよ。」

問六 形式段落☒の三行の中から、太線部「ぞ乗りたりける」や「かありけむ」のような法則が用いられている部分をあと一か所探して、十字以内で抜き出せ。

問七 この話の内容として正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 尾張の兼時は優れた競馬の騎手であり、荒馬に乗ることも得意であった。
- イ 兼時が競馬に出るときに選んだ宮城という馬はとても走るのが遅かった。
- ウ 競馬には馬に乗った時から勝った後や負けた時まで多くの作法があった。
- エ 宮城に乗った兼時はただ落馬するまいとするだけで技を披露できず負けた。
- オ 鞭競馬の名手である敦行はこの日は少し手綱さびきの悪い馬に乗っていた。

問八 (1)『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』などの文学形態(ジャンル)を何というか。漢字二文字で答えよ。

(2)『今昔物語集』と同じ時代に書かれた作品を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- |       |       |        |        |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|
| ア 徒然草 | イ 枕草子 | ウ 奥の細道 | エ 平家物語 | オ 方丈記 |
|-------|-------|--------|--------|-------|

三、次の各問いに答えよ。

問一 次の①～⑤の四字熟語の□には漢数字が入る。各問の二つの□の数字を足し、その合計を数字で答えよ。

例 □長□短(人や物事について、いい面もあり悪い面もあること) ∴ □+□=□

- ① □東□文(売値が非常に安いこと)
- ② □朝□夕(わずかな期間)
- ③ 朝□暮□(目先の違いにとらわれて、結局は同じ結果であることを理解しないこと。言葉巧みに人を欺くこと)
- ④ □臓□腑(臓器やはらわた。体内、腹の中、心中)
- ⑤ □通□達(道路網が発達して便利なこと。往来の激しくにぎやかな所)

問二 次の①～⑤の、それぞれの作者に共通した思潮・グループ(「主義」「派」など)を次から選び、記号で答えよ。

- |             |             |              |
|-------------|-------------|--------------|
| ① 島崎藤村・田山花袋 | ② 志賀直哉・有島武郎 | ③ 永井荷風・谷崎潤一郎 |
| ④ 遠藤周作・小島信夫 | ⑤ 石川淳・太宰治   |              |
| ア 自然主義      | イ 耽美派(耽美主義) | ウ 余裕派        |
| カ 内向の世代     | キ プロレタリア文学  | ク 第三の新人      |
|             |             | ケ 新戯作派(無頼派)  |
|             |             | コ 戦後派        |
|             |             | エ 高踏派        |
|             |             | オ 白樺派        |